

仙北市議会 だより

平成24年5月1日 No.26

主な内容

仙北市議会2月定例会	2~3
一般質問	4~9
常任委員会	10~12
議会改革	13
座談会 新年度の展望	14~15
傍聴席・編集後記	16

ピカピカの二年生(西明寺小学校入学式) 2月定例会

議会報告会開催

日時 平成24年5月17日(木) 午後7時~8時30分

会場 角館交流センター・神代就業改善センター・西木公民館(3地区同時開催)

議会だよりを中心とした報告会を計画しておりますので、この「議会だより」をご持参のうえ、是非、ご参加ください。

その他に常任委員会や本会議での論点について概要を報告しながら、皆様との意見交換を予定しておりますので、多数の参加をお待ちしております。

写真提供 [カメラの南山]

第1回 仙北市議会2月定例会

平成24年2月28日
最終日：3月23日

平成24年度 仙北市一般会計・特別会計・
企業会計の全予算案を可決（一部賛成多数）
成立する

市の予算総額	360億	125万円
一般会計	182億3,900万円	
特別会計	113億9,390万円	
企業会計	63億6,835万円	



本会議の要点

- 税金不正処理問題で県民税、国保財政調整交付金の返還金、遅延損害金の補正予算可決
- 災害廃棄物の受け入れ 岩手県沿岸北部（野田村）の不燃物を田沢湖最終処分場で処理する
- 副市長選任案無記名投票の結果 賛成7、反対13で不同意とする

主な施政方針

1 健康と安全を守る仕組みの強化

市民一人ひとりが仙北市に住んで良かったと思えるよう、目前課題の解決に努める。

行政組織は市民のためにと全職員が心に刻み市民の苦しみは「己の苦しみ」として効率的で効果的、挑戦的な行政運営に努める。

2 経済を発展させる取り組み

所得向上のため農業、商工業、観光業が一体となった6次産業を再構築すると共に農業分野で企業誘致を実現する。

再生可能エネルギーの利活用は、バイオマス発電に次いで、小水力発電や太陽光エネルギーなど、市の次期産業にどのようなに関連づけることが出来るか模索する。

3 次世代の育成

保育園の待機児童の解消、特定不妊治療費の助成、小学校6年生まで医療費の無料化制度の創設に加え、子供達の情操教育、校外教育の場づくり

にも努める。
市民主役のまちづくりのため、市が計画している全878の事業で支援をする。

一般会計
182億3,900万円

歳入の主な内訳

自主財源

○市税 24億3,468万円
（景気の低迷や入湯税の減少などにより7,257万円減）

○分担金及び負担金 1億2,256万円
（保育費他で526万増）

○使用料及び手数料 2億5,817万円
（診療所、ごみ、駐車場、住宅使用料他で475万円減）

○諸収入 7億6,271万円
（給食費、中小企業振興資金預託金他で3,401万円減）

○繰入金 8億1,894万円
（財政調整基金取り崩し

他で、457万円減）

依存財源

○地方交付税 91億円
（3億円増）

○地方譲与税 2億1,500万円
（揮発油、重量税他で500万円減）

○地方消費税交付金 2億7,500万円
（消費税の1%分で500万円増）

○国庫支出金 14億7,402万円
（障害者自立支援費、児童扶養手当、子供手当、生活保護費、社会資本整備交付金、合併市町村補助金他で、9,516万円増）

○県支出金 9億4,418万円
（国保基盤安定負担金、障害者自立支援、後期高齢者医療保険基盤安定、子供手当、生活保護、医療通信施設整備、福祉医療費補助金、すこやか子育て支援、電源立地対策、緊急雇用、農業夢プラン農林整備、県税徴収取扱費、他、特に緊急雇用対策費の減少により、595万円減）

○市債

17億7,030万円
 (ふる里振興基金積立金、道路橋りょう整備、都市計画街路整備、消防施設整備、辺地対策、過疎対策、臨時財政対策債などで、1億7,890万円増)

歳出の主な内訳

義務的経費

○人件費

38億2,083万円

○扶助費

19億4,069万円

○公債費

31億3,540万円

投資的経費

○建設事業費

16億3,597万円

その他の経費

○物件費

28億8,678万円

○補助費

18億3,682万円

(一部事務組合、病院事業会計補助金、他で、1億2,109万円の増)

○繰出金

22億7,223万円

(国保会計、介護会計、後期高齢者他で、1億1,414万円増)

平成24年度主な事業

田沢湖・角館観光連盟

補助金 1,160万円

東北観光博やデステイネーションキャンペーンなど、受け入れ態勢の強化や誘致活動の推進を支援する。

クニマス里帰りプロジェクト事業 175万円

山梨県富士河口湖町(西湖)との交流事業の展開。

新規就農総合支援事業 633万円

就農意欲のある青年を地域のリーダーとして人材育成を図る。

秋田県種苗交換会招致推進事業 210万円

仙北市に種苗交換会を誘致実現のための調査費

園芸作物産地緊急拡大事業 1,250万円

園芸品目の量や品質確保のため生産力強化を支援して生産拡大を図る。

角館保育園増築事業 2,624万円

待機児童解消を図るための増改築事業。

スクールバス購入事業 608万円

松木内中学校にスクールバスを購入。

行政連絡員費

201万円

住民に対する情報の連絡調整や災害発生時の災害状況把握等を行う。

再生可能エネルギー導入 460万円

①再生可能エネルギー設備の導入検討

②EV用急速充電器の設置補助

③住宅用太陽光発電システム設置補助

防災行政無線設置 8,600万円

角館地区へ新設整備を図る。

火山砂防フォーラム開催 209万円

全国火山砂防防災フォーラムを本

市が会場となるための開催経費。

副市長選任案

副市長の選任に同意を求めることについて

市長より地元

の状況に明るく人脈があり、市の抱えている重要

案件を解決に導いてくれる佐藤

秀夫医療局長を選任する案が追加提出される。

無記名投票の結果賛成7票、反対13票で不同意とする。

本会議最終日のできごと

角館総合病院、建設用地は落合地区に

本会議最終日、市長より角館病院の安定経営を行う上で、仙北市以外からも訪れたくなるコンパクトな患者に優しい病院づくりを目指すため、角館落合地区を決定案としたいと述べる。

(田口喜義 記)



女岳より噴気が上る秋田駒ヶ岳

主な議決結果／議員賛否 (平成24年 第1回 仙北市議会定例会 (招集日: 2/28 最終日: 3/23))

凡例: 賛→賛成、反→反対 (議長は、法律に定める特定のケース以外では表決をしないことになっています)

議案番号	会派及び氏名等 件名	議決月日	議決結果	民 政 会 議				仁 政 ク ラ ブ				翠 鸞 会				新 星 会		日 本 共 産 党		会 派 に 属 さ ない 議 員		
				伊藤邦彦	阿部則比古	狐崎捷琅	門脇民夫	佐藤直樹	黒沢龍己	田口寿宜	安藤武	小林幸悦	藤原助一	田口喜義	荒木田俊一	青柳宗五郎	高橋 豪	八柳良太郎	高久昭二	平岡裕子	熊谷一夫	小田嶋忠
議案第18号	平成24年度仙北市一般会計予算	3.23	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	反	賛	賛	賛
議案第23号	平成24年度仙北市国民健康保険特別会計予算	3.23	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	反	賛	賛	賛
議案第24号	平成24年度仙北市後期高齢者医療特別会計予算	3.23	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	反	賛	賛	賛
議案第33号	平成23年度仙北市一般会計補正予算(第9号)	3.23	原案可決	賛	賛	賛	反	賛	賛	反	反	賛	反	反	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛
平成23年 請願第1号	家庭用LED照明購入費補助事業の実施について	3.23	不採択	反	反	反	反	反	反	賛	反	賛	反	反	賛	反	反	賛	反	賛	反	反

一般質問



- ・23年度の施政方針に掲げた目標の達成度はどう検証されたのか
- ・農政について
- ・第29回国民文化祭・あきた2014の取り組みについて
- ・職員の派遣及び人事交流について
- ・震災廃棄物について

翠巒会 荒木田 俊一 議員

23年度施政方針の達成度は

質問 23年度の施政方針に掲げた目標を大別すると次の4点と考える。

- ① 地域に活力を取り戻す
 - ② 医療・福祉環境の構築
 - ③ 市民所得の向上
 - ④ 高齢者と子育て支援
- 以上の目標達成度の検証と、23年度を振り返り24年度の施政方針にどう生かされたのか伺う。

答弁 ①最大の原因は人口の減少にあると考える。定住対策については、さまざまな施策を講じているが決定打を打ち出せない状況にある。

一つの手法として地域運営体や各団体と協働理念のもとに施策を進めているところである。

②医師不足の解消や病院健全経営が見える形で示すよう最善の努力をする。

高齢者生活実態調査に基づき、新たに多くの活動が展開されている。

③産業振興基本条例が制定され、土台ができた状況にある。この条例を生

かし、六次産業化の推進等に努めていく。

④予防医療の観点から、後期高齢者短期人間ドックの助成や公共交通の利便性向上の施策等を行っている。

子育て支援対策では角館保育園の増築や保育サポーター事業等である。

24年度の施政方針であるが、市民の経済基盤を強固にしていくために総体的な総力戦が必要と考える。

農政について

質問 所得を向上させるプロセスを明確にさせる必要性の考えを伺う。

答弁 市が目指すべき農林業の姿や振興策を明記した計画書が必要と考えているが、激変する農業情勢も注視しながら策定時期の判断が必要と考える。

質問 個別所得補償経営安定推進事業のマスタープラン作成の進め方によっては集落内で軋轢^{あつれき}につながる恐れが心配される。また、検討委員会の構成メンバーに3

割以上の女性委員を入れることになっているが確保は可能か。

答弁 地域農業の将来問題に、市が調整役になり地域将来の指針として活用できるものを今年9月ごろまで策定したい。

検討会のメンバーには女性農業者にも委員の承諾をお願いしていく。

質問 種苗交換会開催の主たる目的は産業の活性化、起爆剤としての取り組みなのか、あるいは経済の波及効果に期待しての開催なのか伺いたい。

答弁 開催の目的は特定的に絞られるものではなく、農業関係者の生産意欲や技術の向上であったり、地域経済の活性化、起爆剤にもなると考えている。

質問 国民文化祭の取り組みは

質問 県の基本構想が発表されているが、当市の取り組み状況及び実行委員会の設置、計画(案)策定と開催に当り施設、設備環境は対応で

きるのか。

答弁 各エリアに分け事業提案をしており、積極的に取り組んでいきたい。

実行委員会は県が立ち上げた以降、市でも立ち上げる。開催会場については想定施設の安全対策を重視していく。

職員派遣及び人事交流について

質問 職員が県を初め各機関に派遣されているが、効果をどう検証しているのか。

答弁 県、市が抱えている問題を的確に把握し、分権時代を担う管理職員に必要な能力を身につけることが目的となっている。

質問 市とJAの派遣期間が違う。1年に満たない期間だと一連の流れの研修にならない。また、交流後の人事配置についても、研修を生かし、スキルをあげていくというのが妥当かどうか。

答弁 24年度は派遣期間を1年間と想定している。

災害廃棄物の受け入れについて

質問 説明手順、資料等に準備不足の感があるが、市として十分と捉えているのか。また、今後の具体的な進め方を伺う。

答弁 県や国の対応の不確定要素などがあり十分な説明が出来なかったことを反省している。

受け入れ廃棄物の種類は基準に基づき安全性が確保される不燃物系で最大2年間で一万二千㎡としている。

市が単独で行う空間放射線量の測定データを逐次情報発信していく。

(小林幸悦 記)



仙北市でもこの賑わいを作らなければ

一般質問



・税の不正処理問題について

仁政クラブ 安藤 武 議員

住民の知る権利

質問 会は門脇市長以前にもありながら、疑惑の究明なしでは市民の市政に対する信頼回復は、あり得ないと真相解明に向け、これに英断を下した市長、その任務を遂行された石山前副市長は絶賛に値するものだ。

質問 市民の多くが市政に落胆し、怒りを感じていることは私の性格でも日々耐えることが出来ないほど辛い。この事案では、血がにじむ思いで成し遂げた市町村合併が崩れるという危うさを感じた。

質問 合併当初から不正処理の発覚はなかったのか。

質問 今回の一連の事案については投書があるまで認識はなかった。

質問 30年間の付き合いをいいただいた行政の大先輩である。一点の曇りもなく、物事を曖昧にすることを嫌い、本当に高潔な人物だった。

質問 この不正処理は石山氏の、行政マンの哲学に反した行為である。全力で地域づくりに取り組み、新生仙北市として、負のイメージの脱却を図りたい。

質問 市民の反響をどうとらえているのか。

質問 市民の多くが市政に落胆し、怒りを感じていることは私の性格でも日々耐えることが出来ないほど辛い。

質問 合併当初から不正処理の発覚はなかったのか。

質問 今回の一連の事案については投書があるまで認識はなかった。

質問 30年間の付き合いをいいただいた行政の大先輩である。一点の曇りもなく、物事を曖昧にすることを嫌い、本当に高潔な人物だった。

質問 この不正処理は石山氏の、行政マンの哲学に反した行為である。全力で地域づくりに取り組み、新生仙北市として、負のイメージの脱却を図りたい。

質問 市民の反響をどうとらえているのか。

計課が関係する部分があった。

不正行為の解明

質問 一連の不正を組織ぐるみと結論づけた理由とその範囲とは。

質問 当時の税務課では過ちを正すという自浄能力、自浄作用が働かなかつたので組織ぐるみと言わざるを得ない。

質問 不正の指示や依頼相談したとされる上司の関与は全く不明で、実態だけが先行して、その背景が何も解明されていない。

質問 今回の調査は、その関係を明らかにするための調査であった。

質問 だが指示をしたのかだれが認めたのかを聞き取るためのものだった。しかし職員からは、その繋がりを明らかにすることはできなかった。

質問 この事案の決裁については一概に、全て町長まで行くのかは、個別の文書を確認しなければわからない。

質問 不正が発生していた当時の幹部との接触はあったのか。

質問 不正が発生していた当時の幹部との接触はあったのか。

質問 当時の各町長からは、この様な事案は二度と起こらないように対策を講じなければいけないとアドバイスを頂いた。

質問 処分に対して不服はなかったのか。

質問 今回の処分については不服はなかったものと理解している。

質問 この処分を下した責任者として、重い十字架を背負ったと思っている。人さまと同じように畳の上で死んではいけない人間なのかと思っている。

質問 まだ確定していない所得税と交付税に遅延加算金が発生するのか。

質問 遅延損害金、加算金の発生については、総務省と国税局の判断に委ねるしかないと考えている。

質問 職員、OBを含む返還金の内容と、全員の協力は得られるのか。

質問 当事者、原因者な輪にOBの方々にも参加していただき、協力している。

質問 全容解明のため法的手続きを取らないのか。

質問 最終的には法的な手段に訴えることは断念した。ただし、道義的な部分であったり、関係する方々との協力関係がスムーズに行かない場合は、法的な論拠に基づいた行動を取る局面が来るかも知れない。

(田口寿宜 記)



辞任のあいさつをする前石山副市長

用語解説

調定額…歳入の内容を調査して収入金額を決定すること

乖離…本来は密接にあるべき二つのものが離ればなれになっていること

一般質問



・国のスポーツ基本法の制定に基づく本市の総合型地域スポーツクラブの取り組みについて
 ・再度デュアル・モード・ビークル（D・M・V）について

民政会議 狐崎捷琅 議員

国のスポーツ基本法の制定に基づく本市の総合型地域スポーツクラブの取り組みについて

質問 昭和36年に制定されたスポーツ振興法が50年ぶりに改正され、スポーツ基本法という法律が制定された。この「スポーツ基本法」の大きな柱に生涯教育がありそれを推進していく上で、総合型地域スポーツクラブの育成が急務とされ、現在秋田県各市町村に最低一つの総合型クラブが作られている。

本市では、次の目標である中学校区1つの設立に向けて努力していることは承知している。ただ、未だ、仏作って魂を入れていない状況が目立つ。これからは量から質へ向かわなければならぬ。折角住民が立ち上がった総合型クラブを作っているのに、もう少し街づくりの「協働」の精神に立って市が努力してくれればと思う。

その観点に立って質問したい。

①西木の西明寺地区にN

PO法人アクアスポーツクラブが総合型として立ち上がったが拠点場所が難航しているようだがどうなっているか。

②総合型のキーワードは多世代・多種目・自立自立であるが、西木（松木内地区）の総合型クラブの自主・自立運営に對してどのように関わり、どの指導しているか。

③神代中学校地区の総合型取り組みの見通しは？

答弁 総合型スポーツクラブの育成についてはスポーツ推進基本計画の中で生涯スポーツ社会の実現に向け、各市町村が最低一つの設立目標を掲げ取り組んできた。

本市においては、次の目標である中学校区に一つの目標を掲げ、現在、田沢湖、角館、西木（西明寺、松木内）に設立されている。

①西木地区のアクアスポーツクラブの活動拠点の隣の体育館と棟続きの保健センターを考えている管財と相談して住民が使いやすいように取り組

みたい。

②松木内地区の総合型については地域住民の自主運営に向けた体制づくり支援、多世代にわたり誰もがいつでも参加できる環境作り支援を行い自主運営できるように支援していきたい。

③神代中地区については、設立に向けて現在取り組みの準備中である。総合型スポーツ調査検討委員会での意見調整を図りながら設立していきたい。

再度デュアル・モード・ビークル（D・M・V）について

質問 前にも一般質問で述べたが今回は、私連会派がDMVの実証実験を終えた富士市を視察しその結果を踏まえ質問する。DMVについては、テレビ等でみかけた方もいると思うが要するに線路も道路も走れるマイクロボスのことである。

このマイクロボスを内陸線に導入することの提案である。内陸線導入により次の2つの利点が考えられる。

その1点目は、乗客の少ない時間帯に内陸線を走らせることにより経費の節約になるということである。このDMVは、14人乗りから28人乗りまであり3台の連結が可能である。

その2つ目は観光に利用できることである。

例えば角館から田沢湖を回って田沢から上松木内を回って角館に戻るコースや上松木内から鷹巣方面へのコース、途中観光地を車で行くことも出来る。また田沢で乗った人は病院までそのまま行く観光と生活を連絡する方法も考えられる。

DMVの富士市の資料を市当局議員各位にお渡ししているが、わが市でも実証実験をやってみるつもりはないか。

車両は北海道JRで貸し出して年間2千万円である。

答弁 DMVの導入はご提案のように新しい輸送サービスの展開が考えられる。毎年改良しているそうだがそのメリット、デメリットをよ

く検証しなければならぬが内陸縦貫鉄道の取締役としても大きな期待を寄せている。

質問 乗り入れは踏切入れには5分、出るには2分で出られる。インターネットの動画でも見られるので見てほしい。

答弁 現地できつちり視察された方々のご意見は大変重いものと受け止めている。ぜひ、検討していきたい。（門脇民夫 記）



実証実験で富士市を走っているD・M・V

一般質問



・市長のマニフェストの検証について ・職員研修と職員の融和について

日本共産党 高久昭二 議員

市長のマニフェストの検証について

質問 門脇市長は市長選時、マニフェストを掲げ、特に所得の10%アップは先の東日本大震災で見通しが付かず、凍結せざるを得ないのではないか。

答弁 東日本大震災で地域経済に深刻な状態に陥ったが、所得アップ対策は今でも一番重要な実施すべき課題である。

質問 小坂町、三種町まで医療費を無料化することで、より子育て支援になるのではないか。

答弁 中学校卒業まで医療費無料化については、財源確保、制度のあり方を含め、前向きに検討していきたい。

質問 先のマニフェストでは地域公共交通システムの確立、ライフラインの充実が掲げられている。平成25年度県補助金削減に伴い、平成24年度から羽後交通松木内線を廃止することになったが、同バス路線維持を求める有志の会が西

木町人口の約5分の1の署名(1,300名)を集め、市長と交渉を重ねた。

1月21日西木町かたくり館説明会で松木内地区からバス2台で動員をかけ賛成するやらせの発言があったと思うが、公平で透明な市政を求めることと相反する手法ではないか。また、鎧畑線は新年度市費で運行継続すると聞くがどうなのか。

答弁 4月1日から羽後交通松木内線、岡崎院内線を切り替え、デマンド型乗り合いタクシーを導入する方向で昨年7月から地域住民と意見交換会を踏まえ決定した。

羽後交通バス路線存続を求める有志の会から1,000人超える署名簿、要望書を戴き、大変重く受け止めている。不便地域を解消し、ど



試験運行が始まったデマンド型乗り合いタクシー (下鎌川)

こでも公平に移動できる手段として、デマンド型乗り合いタクシーの試験運行を実施し、必要な見直しをしていきたい。特にやらせの発言はさせていない。

田沢湖鎧畑線は乗車密度2、5で県補助金対象は3以上となっている。

職員研修及び人事異動と市職員の融和について

質問 当市も例年職員研修を実施しているが、最大の視点は市職員が市民全体の奉仕者という点である。昨年東日本大震災時、宮城県南三陸町女子職員の方が最後まで声をからし住民の避難誘導に尊い命を犠牲にされた。又、人事異動、職員間の融和については合併して7年目を迎える旧町村職員が団結し、市民のため日常業務にあたって頂きたいと思うが、すべての職場が必ずしもしっくりいってないとの声を聞く。

昨年大幅な人事異動で一部職員が3回も職場変更され、精神的ストレス

で休職され、今年度末20名も早期退職者がいると聞く。所得税還付問題も影響し職員間の融和に努めることが特に求められる。

最終日副市長人事案件に付き、職員間の融和に努め清潔で公正、平等で人格等立派な方を選任して戴くことを切に願います。

答弁 市職員研修について人材育成の基本方針に伴い職場外研修を含め市民ニーズにこたえられる職員育成に努めてきた。

又、人事異動については自己申告を基にさまざまな角度から勘案し実施してきたが、職員の転任、健康上の問題で異動が多く、配属年数が短期でやむを得ない場合もあった。

合併7年目迎え、分庁舎方式、福利厚生面で職員間の交流、融和を図り、職員の意識改革、接遇改善を図っていきたい。

副市長人事に付き立派な方を選任して戴ける様調整中である。

(安藤 武記)

一般質問



・所得税不正還付問題について ・過去の質問のその後の経過について

稲田 修 議員

所得税不正還付問題について

質問 旧角館町の所得税の不正還付問題については、現職の職員は理解も納得もしていない。

刑事、民事、時効等いろいろ問題はあると思うが当時の最高責任者に道義的な責任はあるのかどうなのか。

答弁 昨年12月に調査委員会からの報告書、市民検証委員会の報告書を持参して結果を報告している。

その際、このような事案があったということについて認識はなかったという話を伺っている。

自分の政治的スタンスから行くと、当然責任を逃げるものではないと思っっている。そういう考えから返還会にご協力いただければと思っっている。

質問 現職の職員が26名処分を受け、若い職員程重い結果になっているが理解できない。勤務情報を開示できないか。

答弁 今回の処分については調査結果を精査し、顧問弁護士からも指導を受け断腸の思いで毅然とした対応をした。

停職を受けた職員は税務課に4年～8年在職していた。

質問 職員の定期的な異動が行われていればこのようにはならないのではないか。

答弁 同感である。コンプライアンスをもった職員で、違法行為はいけませんと言者がいかなかったのが残念でならない。

質問 責任をはっきりさせるためにも民事でも告訴する考えはないのか。

答弁 告訴に耐え得る条件をすべて整えなければならぬ。時間の流れから証拠書類等を整えることが難しい大変残念な状況である。

質問 合併前に起きたものをなぜ仙北市全体でという疑問が市民間にある。きっちり開示していかねばしこりが残る。市民感情をどう捉えているのか。

答弁 行政というのは連続して現在がある。合併して一つの家族になったのであり、この事案に対しては市民は仙北市の市民だと思いで、今の仙北市が抱える問題だと思っただきたい。

そうでなければ次の仙北市を作るエネルギーが拡散してしまう。

過去の質問のその後の経過について

質問 過去に質問した少子化対策、高齢者対策、市民サービス、人口減少対応はどうなっているのか。

答弁 少子化対策では新たに、特定不妊治療費の助成を県の助成に上乗せしての制度を実施したい。

子供に対する福祉医療助成費を小学校卒業までの拡充策をとり、小学校の医療費無料化とそれを中学校まで拡大を検討したい。

保育所の待機保留児童対策で角館保育園の増築

を行う。又遊休施設を活用し幼児の託児事業も始める。子育てサポーターの育成に努めマンパワー充実を図りたい。保育士の6割以上が非常勤という事態であり早く改善しなければという思いである。

結婚支援についても行政も出会いの応援隊として果敢に挑戦していきたい。民間でも動きがあり期待している。

年々高齢化が進んできている中で屋根の除雪や空き家対策、流雪溝の問題も議会と協議して参りたい。

除雪に関しては要援護世帯から地域の方々から支援をいただき感謝しているという話をいただいている。

(荒木田俊一 記)



所得税還付問題の市民検証委員会の答申に市民は納得しているだろうか

一般質問



・市立角館総合病院の改築について ・今後の市財政のありかたについて

民政会議 阿部則比古 議員

市立角館総合病院の改築について

質問 市唯一の救急病院として、市の人口分布の重点点近傍にあり、市民全体に公平性を担保でき、最も交通の便の良い、国道46、105号線の交点である城廻地区周辺が何故主たる候補地として考慮されなかったのか。

答弁 候補地選定は建設計画選定委員会での審議結果により市内4ヶ所の候補地が選定され、市の重点点に近い角館東小学校も選定されている。又、議会の病院建設特別委員会からも建設用地についての中間報告で落合地区が相応しいとの報告を受け、これを尊重したいと思っている。

質問 市内唯一の救急病院が落合地区に建設されると、角館地区に比して西木、田沢湖地区は救急患者の病院到達時間に重大な不公平が生じる。しかも西木地区は高規格救車にもなっていない、まさに憂慮すべき事態だ。通院の利便性、交通費に関しても大きな

不公平が生じる。2方向を大きな川で囲まれた、まるで城でも造れば良いような交通の便の悪い他市との境界になぜ基幹病院を建設しなければならぬのか。財政上の問題点からしても本市の医療体制の合理的な再編がこれでは今後不可能になる。

答弁 病院へのアクセス、救急搬送時間や田沢湖病院及び西明寺・神代診療所等の連携や交付税措置等財政的な要件も視野に入れ、あらゆる角度から検討がなされたこと認識している。特に患者動態では入院・外来を合わせて大仙市が占める割合が2割近い実績もあり旧中仙地区等の動向に配慮すべき必要がある。

質問 病院経営が極めて厳しい状況にある。激しく人口減少が進む中、財政難に加えて質の高い医師や看護師が今後とも十分に確保出来ない現況下で、中途半端な自治体病院を2つ抱え続けることは市民に対する取返しの付かない欺瞞で

ある。人材も資金も設備も医療器材も一極に集中して、少しでも市民に質の高い医療を提供すべく努めるのが行政、或いは政治家としての当然の責務だ。後世の批判に全く耐えない理解に苦しむ愚策だ。

答弁 一極集中による質な医療を提供すべきが行政としての責務であるという考えはもつともだ。自治体病院の使命と役割を認識しながら開業医の方々、また診療等を含めた病院・診療所相互の連携強化を図る必要がある。私の今のスタンスとしては、病院経営を一懸念自治体が試行錯誤をしながらも携わる必要があると思う。その仕掛けづくりに医療局が出来た訳であり、効率性の高い病院経営や人事の交流を業務として行い、その成果がいずれ上がって来ると考える。

質問 今後の市財政のありかたについて
市民が減少し続ける中、自主財源

が今後大きく落ち込み地方交付税も人口減少に伴って減額される。先行きの展望のないまま、なぜ職員の採用を増やしているのか。

近隣の大仙、横手、湯沢市に比して、市民に対する相対職員数が仙北市は異常に多い。

新たなセクションを作って職員を貼り付け、足りなくなったらからと新たに職員を採用することは止めて頂きたい。今後は歳入が減少し続け、相対的に経常経費の比率が上がり、財政の硬直化が一層顕著になる。将来財政破綻も懸念される。今後職員の採用はよほど慎重に、且つ財政にはもつとシリアスに取り組みなければいずれば大変な状況になる。

答弁 職員の採用は定員適正化計画に基づいている。合併後の第一次、第二次各5ヶ年計画で27年まで95人削減して764人体制を目指している。職員の減少に伴い市民サービスの低下が危惧される。増大する行政需要に的確に対応して行くために総合的に判断して新規採用人員を決めている。人件費は昨年度から1億5千万円以上減額になっていて、予算に対する構成比でも減少している。

(門脇民夫 記)



病院建設予定地（落合）



総務常任委員会

総務常任委員会に本会議において付託された案件は、条例関係5件、予算関係9件、その他7件の計21件である。

■仙北市協働によるまちづくり基本条例制定について

問 まちづくり条例の規範となる自治基本条例を制定する予定はないか。

答 自治基本条例の県内の状況は、にかほ市がすでに制定済みで、横手市は平成25年の制定を目指している。今後検討して協議したい。

この案件について、2つの賛成討論があった。
・まちづくり推進委員会と提案型補助金審査会の位置づけをはっきりしてもらいたい。後付でも結構なので、骨格をなす自治基本条例を作成する事を要望する。

・まちづくり推進委員会の構成とか、地域運営体と重複する事があるかもしれないが、一つの基本

条例に則った委員会構成にしていたら、補助金ありきではなく、ボランティアを育成強化して行かなければ、財政的にも成り立たないという事を肝に命じて頑張っていた。

■平成24年度仙北市一般会計予算

【歳入】

問 入湯税関係について、個人が滞納した場合に厳しく取り立てられるが、相手が会社となると不公平感がある。閉鎖や倒産は別だが、預かり金なので、いただくという姿勢を貫くべきではないか。

答 入湯税を滞納されている方は、固定資産税も同様の状況にあるので、今後の方針としては、預かり金である入湯税を優先していきたい。

問 財政調整基金が厳しい状況になると、災害や非常時に予算が組めなくなるのではと危惧してい

るが、積み立てを増やさなくても大丈夫か。

答 財政調整基金の規模については、適正割合が標準財政規模の10%と言われている。仙北市の平成23年度の標準財政規模にすると、13億円程度という事になる。しかし、仙北市は財政調整基金に頼らざるを得ない予算編成が続いている。今年度においても、まだ歳入の確定していない特別交付税や各種交付金がある。

専決処分をお願いしたいと思っているが、財源に余裕ができれば、できる限り財政調整基金に積み戻して、できるだけ多くの基金を造成したいと考えている。

【歳出】

問 クニマス里帰りプロジェクト事業について、田沢湖の水質の関係について。

答 クニマスの生体展示について、いち早く展示をしたい。可能になれば補正等考えている。

田沢湖の水質については、県で平成24年度から石灰石での中和処理でよいのかを見直しする検討

委員会を設置し、水質改善に努めたいとの報告があった。

問 交通政策費の関係で、路線バスや地域の足が少なくなってきた中で、中長期的なビジョンを持った、公共交通政策を進めていかなければならないと考えるが、当局ではどう考えるか。

答 合併以来、地域公共交通にかかる対策は毎年大きな課題になってい

る。自治体として、高齢者と通学の足は絶対に確保して行かなければならない事であり、今後も議論していただいて、市民の足を確保していきたい。

■平成23年度仙北市一般会計補正予算(第9号)

県民税関係損失負担金について質疑が集中した。

問 市民の理解を得る為にも、返還会に対し、公正証書を作って進めていく事は考えていないのか。

答 今の進め方としては、額が確定したものに

ついて、市長名で請求するということを進めたい。

所得税、交付税、住民税の分が確定したら、また補正予算にお願いして、その分を請求する。

◎採決の結果
平成24年度一般会計予算及び平成23年度一般会計補正予算の2件については賛成多数で、他19件については全会一致で原案を可とすべきものと決定した。

(田口寿宜 記)



玉川の新しい中和処理方法を提案する大曲農業高校農業クラブの生徒



産業建設常任委員会

当委員会に付託された案件は議案20件、継続審査の請願1件であります。

■議案第17号
平成24年度仙北市簡易水道事業特別会への繰入について
全会一致で可と決定

■議案第12号
仙北市企業立地促進条例の一部を改正する条例制定について

■議案第18号
平成24年度仙北市一般会計正予算

■議案第13号
仙北市企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化に係る固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例制定について

問 農業振興費の事業を行うことよって仙北市の農業はどうなるのか。
答 転作率が40%に近く中で園芸作物が遅れをとっている。複合経営の畑作園芸に力を入れていく。部内関係の予算を最大限活用し多面的経営を支えていく。

■議案第14号
平成24年度仙北市下水道事業特別会計への繰入について

問 総合産業研究所が所得10%アップに繋げるため取り組む課題をどう捉えているか
答 地域の商業等の地域経済の活性化等により、10%アップを目指すもので、効率的な生産活動の促進、仙北市のブランド商品の推進である。目標を達成する為のプロセスが共有できない部分も

■議案第15号
平成24年度仙北市集落排水事業特別会計への繰入について

■議案第20号
平成24年度仙北市下水道事業特別会計予算

問 整備しながらも費用対効果を考慮し進めること。今後、財政面、人口減少を考慮し、市の負担が少ない方法を検討すること。
全会一致で可と決定

■議案第16号
平成24年度仙北市浄化槽事業特別会計への繰入について

■議案第21号
平成24年度仙北市集落排水事業特別会計予算

問 バイオマス施設の瑕疵担保期間の延長はできないのか。
答 2年のものを3年に延長している。これ以上はできない。
全会一致で可と決定

あったが予算を作る際、方向付けを確認した。
第1次、2次、3次産業が手を組み、地域の中で利益が分配される仕組みを作らないとアップは難しい。
市町村型から、補助金等を活用しながら、個人設置型へ切り替えるべきであり、その際には排水路の整備も含め環境に配慮すること。
全会一致で可と決定

■議案第22号
平成24年度仙北市浄化槽事業特別会計予算
討論
市町村型から、補助金等を活用しながら、個人設置型へ切り替えるべきであり、その際には排水路の整備も含め環境に配慮すること。
全会一致で可と決定

■議案第29号
平成24年度仙北市簡易水道事業特別会計予算
全会一致で可と決定

■議案第31号
平成24年度仙北市温泉事業会計予算
討論
源泉が老朽化している現状であり、先を見据え、安定した供給に努めていただきたい。

■議案第32号
平成24年度仙北市水道事業特別会計予算
討論
料金統一の算定にあたっては、地元や関係機関と協議を重ね、理解を得られるよう努めること。

■議案第33号
平成23年度仙北市一般会計補正予算(第9号)

■議案第35号
平成23年度仙北市下水道事業特別会計補正予算(第2号)

■議案第36号
平成23年度仙北市集落排水事業特別会計補正予算(第3号)

■議案第37号
平成23年度仙北市浄化槽事業特別会計補正予算(第2号)

■請願第3号
米の先物取引試験上場の中止を求める請願
全会一致で可と決定
(荒木田俊一 記)

化槽事業特別会計補正予算(第2号)
■議案第43号
平成23年度仙北市簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)
■議案第45号
市道の認定について
■議案第46号
市道の認定について
全会一致で可と決定



24年度の産業・経済の発展を目指し、議論は白熱する

仙北市議会は「議会改革」を進めています

仙北市議会では議会基本条例に基づき、住民の皆様により開かれた議会を目指して議会改革に取り組んでいます。今後もより皆様のお力になれるように頑張っており、参ります。

議会報告会 開催決定!!

これまで、市民の皆様と議会とが直接話し合う機会が少なかったのが現状です。そこで市議会では、住民代表という議会本来の役割を果たすべく、市民の皆様に議会で議決した内容を直接ご報告すると共に、そこで皆様からお伺いしたご意見・ご要望を今後の政策に反映して行くために、市議会としての「議会報告会」を開催することに致しました。皆様お誘い合わせの上、是非お集まり下さいませ。

5月17日(木)午後7時～午後8時30分

**3 地区
同時開催**

角館会場……角館交流センター
田沢湖会場……神代就業改善センター
西木会場……西木公民館

議員定数・報酬が変わります

市の財政が非常に厳しい中、議会にかかる経費についても見直しが必要と判断し、議論の結果、議員定数・報酬の削減が決定致しました。

議員定数

現在
22人



次期改選時
19人

議員報酬 5% 削減
24年4月～(1年ごとに見直し)

「市議会インターネット中継」が始まっています



12月定例会から市議会インターネット中継の実証実験を開始しております。24年3月定例会では一般質問を中継しました。生中継の他、録画したものの市のホームページからご覧になれます。より皆様に開かれた議会にするために今後も続けて行く予定です。是非ご覧ください。

市議会のインターネット中継の見方

仙北市のホームページのトップ画面から、「市議会ライブ中継」をクリックしてご覧下さい。開会中のライブの他、過去の録画もご覧になれます。

仙北市ホームページ
トップページ



市議会ライブ中継
(生中継・録画中継)

市立角館総合病院建設に関する調査特別委員会 中間報告

- 第2回特別委員会では、院長はじめ、先生方との意見交換を開催した。先生方の意見としては、「医師の確保対策、特に内科医の充足が最も重要な課題である」と総括される。その他の意見として、
- ◎新病院は第1次までの救急対応を柱として、病床数は170床前後が基本となること。
 - ◎新病院の建設地は、人口減少のおり、市外からの人の流れも重要であることから落合地区が適地であること。
- などの意見があった。他方、委員からの意見は次の6点に要約される。
- (1)建設地としては、落合地区がベターである。
 - (2)国道46号線と国道105号との交点近傍に建設すべき
 - (3)まちづくりに対する病院建設による効果を含め議論し選定すべきである。
 - (4)財政面も含め、田沢湖
- 病院の将来動向を踏まえた議論をすべきである。
- (5)地元利用率の向上のため、アンケート調査により、その原因を究明して対策を講じるべきである。
 - (6)仙北組合総合病院との医療機能のすみ分けを促進し、連携を強化すべきである。
- 第3回の特別委員会では、医療現場に従事する看護師などの意見交換と建設用地に相応しい用地の絞り込みを行った。本委員会では、多数意見として、整備用地選定検討委員会から答申されている候補地を尊重すべきという結論により、その中では落合地区が相応しいという多数意見が確認された。
- 今後は、市立角館総合病院の現状について、共通した認識に立ち、建設事業工程や財政的な試算も含めた協議を予定している。

座談会 新年度の展望



広報特別委員会最後の編集にあたりこの2年間を振り返り、新年度の課題について意見を交換した。(司会は狐崎委員長)



景気低迷が続く中で、昨年の大震災後の情勢はさらに悪化している。

最初に、市の産業振興対策は十分か。

佐藤 直樹 議員

十分とはいえないと思う。農業でも観光産業でも、やる気のある若者をもっと育てるべきである。雇用の場、若者の定着を考えると、起業等応援事業費補助金、総額60万円限度額30万円ではいかにも寂しい。市は本気になってやる気のある若者、起業したい若者を応援すべきだ。



市長が被災地のガレキ受け入れを表明した

社会情勢を勘案して、市民税が5%の減、入湯税は31%の減とした大変厳しい予算編成だ。

安藤 武 議員

政策の基本は、美句を並べるのではなく、予算措置があつて初めて動くもので、その意味からすると期待は出来ない予算だ。

高橋 豪 議員

震災により、相当な経済的ダメージを受けた。本市は、県内一の観光地でもあり、観光客の著しい減少により、観光産業のみならず、第1次、2次産業も含む多くの産業に影響が及び、未だ本来の姿を取り戻せていない。本市は県内どこにも先駆けて立ち直り、他の見本となるべきである。行政はこれまで以上に支援・振興策を積極的に打ち出す必要がある。

が、旧町村単位での温度差を感じるが…。

荒木田 俊一 議員

受け入れ決定から最終処分場の決定に至るまで市民に対する情報の周知や市民の関わり度があるまま温度差となつて現われていると思う。

門脇 民夫 議員

ガレキが処理されなければ、震災復興は進まないで協力しなければならぬことは、皆さん理解していると思うが、受け入れが計画されている処理場周辺や下流の地域では、放射性セシウムに対する不安がある。これを払拭するためにも、定期的な処理場及び周辺の放射線量の測定と結果の公表が大切である。処理前と変わらない結果であれば、不安は払拭されると思う。

小林 幸悦 議員

放射線量が安全基準以下であることが大前提だが、特に、玉川水系を利用している農家から風評被害を心配する声が聞かれる。

また、処分場の処理水についても不安があり、

空間線量及び処理水を測定の際には関係する土地改良区等にも立会いができるような配慮が必要だ。

田口 寿宜 議員

確かに旧町村単位での温度差は感じられるし、放射線量等に対する不安の声も聞かれる。しかし復興に向けて進んでいる現在、そして将来に渡つて復興に携わっていく子ども達の事を思うと、私たち大人がしっかりと環境を整えなければと考える。子を持つ親の立場から、条件付きではあるが、受け入れには賛同した。



市立角館総合病院の建設に向けて動き出すが議論不足との声もある。

田口 寿宜 議員

病院建設については、色々な場面で議論をされてきているが、急ぎすぎている感がある。建物の状況からして必要な事であると考え、組合病院との関係、2つの市立病院の方向性や個人病院との連携等、地域医療の

あり方と方向性を議論する余地はまだあるのではと感ずる。

門脇 民夫 議員

病院の改築に伴う最新の医療機器の設置は、それを活用する医療技術や医師の招聘、そして、看護の心により、市民の命の砦としての医療体制の構築により市立病院の使命を果たしていただきたい。

小林 幸悦 議員

現在の医療体系を存続し、角館病院の老朽化解消に向けた建設と考えている。改築の必要性は、先の、病院等経営に関する特別委員会でもある程度の説明を受け議論してきたものと認識している。

基本構想は示されており、今後の建設に向けて具体的な議論は病院建設特別委員会が中心となつてするものと考えている。

高橋 豪 議員

病院建設特別委員会では病院の建設用地について答申をしているが、これからは、市民のためにどのような病院づくりが必要なのか、将来を見据



えた議論が必要と考えている。また、病院を核にした「まちづくり」の視点も捨ててはいけない。病院に対する人の流れが出来るということは、そこに関わる多くの産業に対して影響を与えることになる。幅広い切り口で議論していきたい。

佐藤 直樹 議員

新病院の第1次までの救急対応、病床数170床という基本的な考え方は理解できる。そして今動かないと医師の確保が大変厳しい状態になり、現状の救急対応もできなくなると思われる。

田口 喜義 議員

観光地であり、山岳エリアに暮らす住民が多い仙北市。農業に限らず高齢化社会が進む現在、病

人を支える家族が住まいから遠い病院に通うことの大切さは誰も思うこと。生活の崩壊を防ぐためにも市民が利用しやすい、患者にも優しいコンパクトな病院づくりを目指すべきである。

問題の多かつた、木質バイオマス発電の今後の見通しはどうか。

佐藤 直樹 議員

大改修後の維持管理費が大変重要な問題になってくると思う。担当委員会でも議論になったと思うが、新しく設備した分に関してはメーカーに負担してもらわなければならない。メーカーとしての信用、責任の問題でもある。

荒木 俊一 議員

今後の見通しと言うより建設計画初の目的にそってどう実行させるかが課題である。

安藤 武 議員

初年度の昨年は大きくつまづいた。自治体で取り組む事業ではないと思うが、議会

はこの事業を認めてきた。今後は売電と言うより電気、熱を利用する方法を考え、国県の支援を望むしかない。

田口 喜義 議員

トラブル続きの木質バイオマス事業（発電）は改良をくり返しているが、事業の目的と、市が事業主体（直営）として経営するのか民間へ移譲するのか早期に示すべきである。

国税局、総務省、県との協議中の過大受給分が新年度で、もう一度、議会に諮られるが…。

門脇 民夫 議員

市の被った損害を、道義的責任があると思慮される方、OBを含めて関係者全員で返還会を組織し、返還することが市民に対する義務だと思う。

田口 寿宜 議員

大変頭の痛い問題であり正直言って大変腹立たしい問題である。迷惑をかけた所にはその分、しっかりと返さなければならぬが返還会

と仙北市の関係をはっきりさせなければならぬと思う。少しでも責任を感じておられる方々がいらしたならば、是非、返還会に協力頂く事を切に願う。

小林 幸悦 議員

大変残念なことではあるが、各機関で協議され、請求された金額については応じなければならぬと考える。

安藤 武 議員

市長はこの2年間で4年分のエネルギーを使った。県は損害賠償請求するなど強い態度で迫っている。返還会での職員OBの対応と、どのような結果を迎えるか注目したい。

荒木 俊一 議員

市民はもういい加減にしてくれと言う気持ちだと思いが、過去の清算をきっちりつけて次に向かう姿勢を示していきたい。

のように変えるのか。またどう変わってほしいか。

田口 喜義 議員

議会が変われば自治体が変わるとの思いから、現在2つの代表機関（議会と市長）は、市民の信任を受けて議会は多人数

高橋 豪 議員

議会改革と言えば定数・報酬という表向きな議論になりがちだが、真の改革とは、市民のために中身をどう変えるかである。まずは、二元代表制という制度を改めて考えた上で、市議会も市民の代表である以上、市民の声を積極的に吸収する機会を設けるべきであり、この度開催される議会報告会をより有意義なものにしていきたい。また、インターネット議会中継を利用し、委員会等も含め全てを公開していくことにより、議会が今何をしているかがより市民に分かりやすくなる。常に向上心を持ち改革をし続けて行きたい。

門脇 民夫 議員

二元代表制の元、市民の方々の声を議会に反映させるには、定例議会ご

との議会報告会、多くの市民の方々に傍聴していただくよう夜間、日曜議会や本会議中継、市長の先決処分に対する通年議会、議会に対する提言を制度化等をして開かれた議会にしていく必要がある。

田口 寿宜 議員

議会改革を進めてきて大形の形は整ったと感じている。この形を生かし市民の皆様が住んで幸せだと実感できるようにするために、市民の皆様との対話から生まれた政策を提案し、形にして行く事が今まで以上に求められている。改めて、議会の皆様と使命感を共有しながら行動をしていきたいと感じている。

(記録) 安藤 武



最後に議会改革について伺います。定数、報酬の決定は見えたが今後どう

最後に議会改革について伺います。定数、報酬の決定は見えたが今後どう

傍聴席

議会傍聴の大切さを実感

渡邊 吉紀(角館町)

今回私は初めて、市議会を生で傍聴いたしました。

市議会の内容として市の不正問題や、福利厚生の面が多く取り上げられていました。市議会議員の方たちからは市民の意見を反映させ、仙北市をより良い市にするという思いが伝わるものでした。また市長を始めとする市職員も、冷静と情熱の間で、市としての見解を述べている姿が印象的でした。どちらの立場でも仙北市の未来を見据えたもので、仙北市民としての思いが強く伝わってきました。

今までは議会が終わった後に、どのような話がされたのか知ることができませんでした。今回私は生で見ることができ、とても参考になりました。今後の人生においても大きな収穫になりました。

住民の付託に応える議会を

武藤 耕三
(西木町松木内)

町村合併以来数年になります。合併の意義として、スケールメリット、住民サービスの向上等、合併に依って良い事だらけのように言って合併が促進されました。

しかし、私、人丈けなのか、どうも、今の体制は住民がツンボ状態に置かれていてのではないかと思われてなりません。

その要因は、議会と執行機関との抑圧均衡の原理にたつた、正々堂々とはは、非は非としての議会運営がなされていない。絵に画いた餅のように思われてなりません。

地方自治体は、教育、産業、福祉等すべてについて、財源あつての原則であることを肝に銘じて、住民から「市長も職員も議員も良く頑張ってくれている。有り難い」と言われるよう切磋琢磨して、住民の付託に応えることを強く望みます。

市民の声を大切に

高橋 良典
(天仙市中仙)

今度、合併後に採用された若手職員が研修として、市議会定例会の一般質問を傍聴いたしました。今回の議会傍聴を通して、市民の多種多様な行政への要望があることを確認しました。私たち若手職員は日々、各々の部署や目の前の仕事の中に集中し、仙北市全体の課題を見失いがちであると感じました。市全体の利益を考え、少しでも多くの市民の声を行政に反映させたいと思います。

ただ、時代の変化によって、市役所内にゆとりがありません。しかし、住民にとつて最も身近な行政は市役所です。私たち若手職員は、毎日の業務の中で、仙北市の課題を踏まえつつ、自らの業務を改善し、自分の能力を高めるよう努めたいと思います。その成果として、市民の納得できる行政サービスを提供したいと思えました。

もつと活発な論戦を

田村 貞良
(田沢湖生保内)

私は度々、一般質問を傍聴しております。

市民と共に痛身を共有すると言う事で、議員定数を削減し、議員報酬を引き下げ、財源再建に当たると聞いていますが、日常生活に支障がないか、なぜならば、質問日程があるというのに、質問者が少ないという事は理解できません。しかし、議会運営委員会のルールに基づいた事項であると思えます。

議会論戦で、相手方に気遣うような点が見られますが、市民代表である以上感情に走らずに、堂々と論戦をすべきです。

議員を取り巻く環境も厳しい状況にあると理解します。誠心誠意をもって事に当たっている姿に感謝しております。

なお一層の活躍に期待をしている市民の一人です。

市民の目線を忘れずに

岩澤 昭夫(角館町)

急速に迫り来る当市の超高齢化に対して、医療、福祉に対しての適応への不安、そして驚くべき早さで進行する少子化という深刻な問題、高齢化にともない、当然のことながら、福祉等にかかる費用を益々嵩むのは明白です。かかる莫大な費用負担を、福祉等にかかる費用を益々嵩むのは明白です。かかる莫大な費用負担を、福祉等にかかる費用を益々嵩むのは明白です。

これからの費用をどうするか、少子化世代に全てを背負わせて良いのか、考えさせられました。これからその費用を国や県に対して負担してくれというのはいかがなものか、在宅介護で昔の日本人のあるべき姿に戻ることが健全であると思えます。他人のことを思いやるのがパブリック社会性の基本ではないかと考えさせられました。

市は予算がない、前例がない、規制があるという決まり文句でなく、市民の目線を忘れずに地域の為市民の為に仕事をしなさい。

編集後記

「冬来たりなば春遠からじ」という言葉どおりにはいかなない遅い春だった。

この議会だよりを皆さんにお届けする頃は待ちわびた桜もやっと開花する頃だろうと思う。

それにしても昨年は、東日本大震災に始まり、集中豪雨、大雪、大風と自然災害に見舞われた大変な1年だった。

一方、議会も引き続き税の不正還付金問題、バイオマス、病院改築等が山積みしている。

こうした案件に議会広報委員会は議会の内容を出来るだけ正確に伝えようと努力してきたつもりである。

この号で前期2年の広報委員会のメンバーは、後期メンバーと交代するが、この2年間広報に対する市民からのアドバイスを本当に感謝したい。
(狐崎捷琅 記)

人事案件

任期満了に伴う人権擁護員に次の2名を全会一致で同意した。

竹田幸博氏(生保内)

門脇主彦氏(上松木内)